

ニューアプローチ中上級日本語 完成編

長文読解練習 解答例

長文読解練習 1 「三つの異文化体験」

練習 A

- (1) : 異文化間コミュニケーション
~ : 1年前の出来事
~ : 1年前から今まで(の変化)
注: これは時間の流れに沿って ~ を二つに分ける考え方である。
他の視点で分けることも可能である。
- (2) 1つ目は家庭内のコミュニケーション(: 夫婦間のコミュニケーション)
2つ目は職場内のコミュニケーション(: 上司と部下のコミュニケーション)
3つ目は異なる文化をもつ国または民族の人同士のコミュニケーション

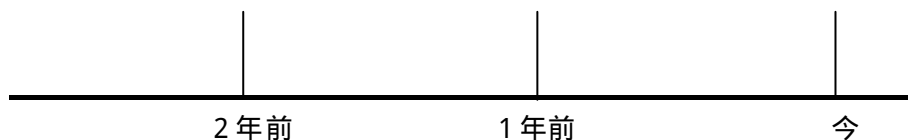
練習 B

表現の意味の確認

1. ケチャップをたくさん使って食べる。
2. 気分が悪くなる。食欲がなくなる。
3. そんなつまらないことで怒らなくてもいいのに、という気持ち。
4. わざと相手を困らせるような質問
5. 「結構な話をありがとう」と、軽い皮肉を込めてお礼を言っている。
6. 自分より美恵子のほうが成長しなければならぬと考えていたのに、その美恵子に「あなたも成長したじゃない」と言われて気分が悪くなったからである。
7. いい意味で使っている。

内容把握

(1)



(2)

1. 以前は石頭でコミュニケーションなどできないと決めつけていたが、最近はいい意味で頑固だと思ふようになった。(第七段落)

2. 無神経な女性で、二度と会いたくないと思っていたが、最近はまだ一緒に食事をしながら色々話してみたいと思うようになった。(第六段落)

(3)

1. 成長したようだ。
2. 世の中にはいろいろな人がいて、それぞれ考え方が違う。考え方が違うという理由だけでその人がだめな人間だと決めつけるのは良くない。先入観で人を見てはいけない。
3. (第五段落の最後、「その言葉が妙に耳の奥に残った」という文章から考えて、) かおりに「あなたには言われたくないわ」と言われたことがきっかけだったと考えられる。

(4) 異文化というのは、普通は外国の文化という意味で使われるが、同じ国の人同士でも、育った環境によって考え方や習慣が違う。そして、その違いから様々な摩擦が起きる。だから、職場や家族の中にも「身近な異文化」があると言える。

長文読解練習 2 「長寿国にふさわしい社会」

練習 A

- (1) < 起 > : 保険証と国民皆保険制度
~ < 承 > : 国民皆保険制度の危機
~ < 転 > : 国民皆保険制度を維持するための方法
(長野県の事例)
< 結 > : まとめ

- (2) 「活動的平均余命」(第五段落 ? .31)
(または、第七段落のまとめに書かれている内容)

練習 B

表現の意味の確認

1. (健康に注意を払わずに、) 病気になってしまったら大変だという意味。
2. 第一に、寿命が伸びるスピードが予想以上に速かったこと、第二に、少子化の波が押し寄せたこととによって、高齢化社会への対応が遅れてしまった。
3. (ただ長く生きることだけでなく) どのように生きるかということ。
4. 人が死ぬことについて、「ちょうどいい年で亡くなる」という言い方をすることは、普通、不自然に感じるから。

内容把握

1. 医療費が増加して、国民皆保険制度を維持していくことが難しくなってきた。
2. 「平均寿命」というのは、その年に生まれた人が何歳まで生きられるかを示したもので、「活動的平均余命」というのは、何歳まで活動的に過ごせるかを示したものである。
3.
 - 良い医療：
(一件当たりの医療費は高いが)治療にかかる日数が短い。
要らない治療はせず、早く治す。
病気の予防や早期発見に努めている。
 - 個人の食生活：
塩分を取りすぎないように食生活の改善に努めてきた。
 - 自治体：
県民の住環境と食生活の改善に努めてきた。
 - 地域のボランティア：
ボランティアに支えられた在宅介護のシステムが進んでいる。
4. 長寿国は長寿国にふさわしい社会環境を作らなければならない。そうしなければ医療費が増加し国の保険制度を維持していくことができなくなってしまうからだ。
医療費を増加を抑えるためには、その大半を占める高齢者の医療費を減らさなければならない。ただ長く生きるのではなく、活動的平均余命を伸ばせば医療費は少なくなる。そのためには、長野県の例が示すように、良い医療と個人の食生活の改善とそれを応援する自治体、そして地域のボランティアが一体となる必要がある。それによって、長寿国にふさわしい社会環境が作られる。

長文読解練習 3 「テレビを見る時間・見ない時間」

練習 A

- (1) 日本では、ある期間にわたってテレビを視聴することが、その後どのような影響をもたらすのかという因果関係の調査が行われていなかった。(第二段落 ? .16-18)
- (2) ・コロンビア大とニューヨーク州立精神医科学研究所の調査
目的：テレビの視聴が子供に対してどんな影響を与えるかを調査する。

・スタンフォード大の調査

目的：テレビを見ないことで暴力的な行動が減るかどうかを調査する。

(3) 省略

練習B

表現の意味の確認

1. 見る人を不快な気持ちにさせるシーンは規制すべきだという考え。
2. かなりかかるという意味。
3. テレビの視聴が青少年に悪い影響を与えることを示す実験結果。
4. テレビの視聴が青少年に悪い影響を与えるという結論を出すことに慎重であること。
5. 生身の人間と接して話すことや自然の中で遊ぶことなど。(第九段落 ? .64-65)

内容把握

1. 何年かにわたって大がかりな追跡調査をしなければならない。
日本ではこれまでそのような調査はなかったが、最近そのような調査が始まった。
2. 表のXとYのパーセントを見ると、AグループよりはBグループのほうが、BグループよりはCグループのほうが大きな数字になっていることがわかる。そして、その増え方をみると、1時間未満のAグループと1～3時間のBグループとでは、それぞれの数字が3倍近く違うことから、「1時間以上見せるべきではない」という結論を出したと考えられる。
3. ・テレビの視聴を減らした児童は、そうしなかった児童と比べて、暴力的行動、言葉による攻撃に数が減少した。
・(コロンビア大の調査はテレビを長時間見ることが、子供の行動にどのような影響を与えるかを調べたものだったが、スタンフォード大のものは、テレビを見ることではなく、見ないことが、子供にどのような影響を与えるかを調べたものだ。) 調査目的は異なるが、どちらの結果も、テレビを長時間見ることが、子供の行動の悪い影響を与えることを示している。
4. 筆者は「テレビを見ない時間」のほうを重視していると考えられる。
それは、スタンフォード大の教授のコメントを受けて、第九段落で「テレビを見ない時の過ごし方についても反省してみてもどうだろうか」と述べているからだ。